

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	田野町立田野小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	3	3	4	1	21	31
児童数	106	106	107	110	120	137	1	687	

研究の概要

1. 研究主題

<p>できる楽しさを味わい, 確かな学力を身に付けていく児童の育成 ~わかるからうれしい, できるから楽しい算数の授業づくりを中心として~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> 全学年・算数 <p>学習の過程で個人差が大きく影響する教科であるため, 全職員が共通理解を図り, 系統だてて取り組む方が効果が大いと考えたから。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

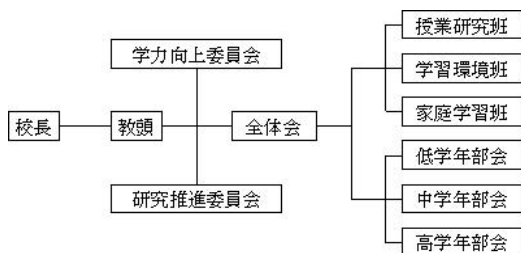
平成14年度	<p>テーマ</p> <p>わかる喜びを味わい, 確かな学力を身に付けていく児童の育成 ~基礎・基本の確実な定着を目指した算数科学習指導の工夫・改善を通して~ 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科の授業において, 指導方法や学習形態を工夫し, 個に応じたきめ細かな指導を展開すれば, 児童はわかる喜びを味わい, 確かな学力を身に付けていくであろう。 学習したことを身に付けるための繰り返し指導や学び方の指導を教育活動全体の中に位置付けていけば, 基礎・基本が確実に定着し, 確かな学力を身に付けていくであろう。 学校と家庭が連携し, 家庭学習などの学習の機会を充実させていけば, 児童は学ぶ習慣を身に付け, 確かな学力を身に付けていくであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科における重点指導事項の洗い出し きめ細かな指導のための指導方法や指導体制の工夫改善 本校における習熟度別指導の進め方 繰り返し指導の工夫 家庭学習の手引きの作成
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ</p> <p>算数の授業づくりを中核にしてきめ細かな指導の充実を図ったり、学習面と生活面の両面からの指導を充実させて学習の基盤を作ったりして、できる楽しさを味わい、確かな学力を身に付けていく児童を育成する。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科の授業において、児童一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導の指導方法や指導体制を工夫したり、児童の学力の評価を生かした指導の改善を行ったりすれば、児童はできる楽しさを味わい、確かな学力を身に付けていくであろう。 ・ 繰り返し指導や補充的な指導など、学校の教育活動全体を通して学びの機会を充実させていけば、学ぶ習慣が身に付き、確かな学力の向上につながっていくであろう。 ・ 校務分掌と直結した研究組織をもとに、学習環境や生活環境の整備、基本的な生活習慣の徹底、健康・体力の増進に取り組んでいけば、学習を支える素地が育まれ、確かな学力を向上させるための基盤をつくることができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法・指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導におけるコース編成の視点の検討 発展的・補充的な学習の推進 一部教科担任制の推進 ・ 学ぶ習慣定着のための取組 <ul style="list-style-type: none"> 放課後の時間を活用した取組 ・ 学習を支える素地づくり <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌と直結した研究組織の編成と実践
----------------	--

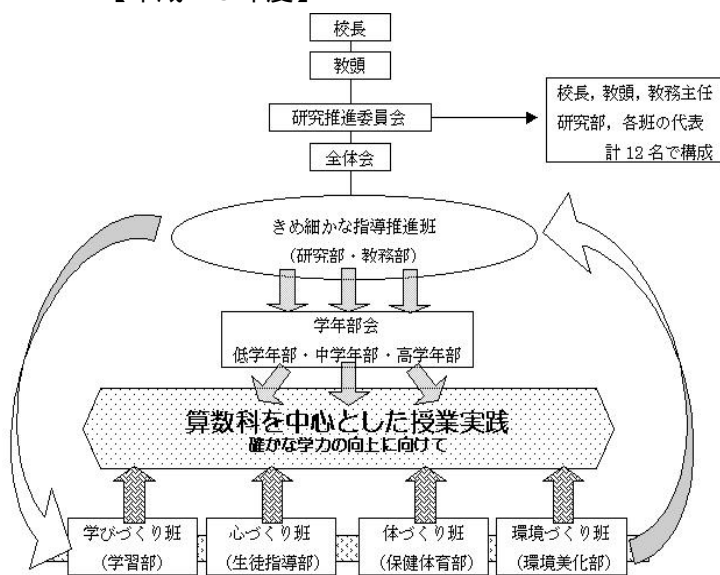
平成 16 年度	<p>テーマ</p> <p>算数の授業づくりを中核にしてきめ細かな指導の充実を図ったり、学習面と生活面の両面からの指導を充実させて学習の基盤を作ったりして、学ぶ喜びを味わい、確かな学力を身に付けていく児童を育成する。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 算数科の授業において、児童一人一人の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導の指導方法や指導体制を工夫したり、児童の学力の評価を生かした指導の改善を行ったりすれば、児童は学ぶ喜びを味わい、確かな学力を身に付けていくであろう。 ・ 繰り返し指導や補充的な指導など、学校の教育活動全体を通して学びの機会を充実させていけば、学ぶ習慣が身に付き、確かな学力の向上につながっていくであろう。 ・ 校務分掌と直結した研究組織をもとに、学習環境や生活環境の整備、基本的な生活習慣の徹底、健康・体力の増進に取り組んでいけば、学習を支える素地が育まれ、確かな学力を向上させるための基盤をつくることができるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導方法・指導体制の工夫改善 <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導におけるコース編成の視点の検討 発展的・補充的な学習の推進 一部教科担任制の推進 ・ 学ぶ習慣定着のための取組 <ul style="list-style-type: none"> 放課後の時間を活用した取組 ・ 学習を支える素地づくり <ul style="list-style-type: none"> 校務分掌と直結した研究組織の編成と実践
----------------	--

(3) 研究推進体制

【平成14年度】



【平成15年度】



右記のように、校務分掌と研究組織とを一体化し、知育、徳育、体育面から研究を進めることにした。

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

少人数指導や習熟度別指導において、児童のつまずきに応じたきめ細かな指導を工夫していくことで、評定が「1」の児童が「2」や「3」に伸びたり、「2」や「3」の児童が「4」に伸びたりしてきた。

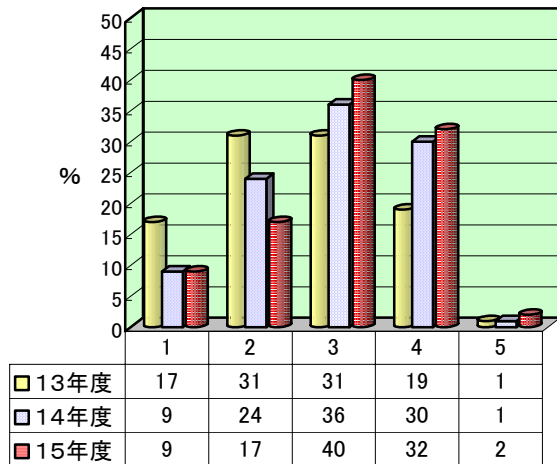
(右のグラフ参照)

一部教科担任制では、各教師が特定の教科を受け持つことで、十分な教材研究とよりよい授業展開をすることができるようになった。

さらに、学年の教師で学年の児童を育てていくという意識が高まり、児童理解の効果が見られるようになった。

計算力の向上をねらって取り組んできた「チャレンジタイム」や放課後の時間を活用し児童の学習の支援をしていくことを目的とした「わにつかタイム」などの取組が充実してきて、計算力の向上や漢字力の向上が見られるようになった。

校務分掌と直結した研究組織とすることで職員の役割分担がいつそう明確になり、学習を支える素地固めという共通の目的のもと、各班の実践が焦点化された。



学力検査の結果比較
5段階評定 各段階の割合
(算数科・全校児童対象)

2. 今後の課題

算数科におけるきめ細かな指導の充実のために、児童の実態把握の方法や評価方法のいっそうの工夫や授業研究の積み重ねが必要である。

発展的・補足的な学習の教材開発の基本的な手順を明らかにして各学年の教材開発を進め、算数が苦手な児童だけでなく、算数が得意な児童（評定が4や5の児童）の学力をさらに伸ばすような教材の開発が必要である。

現在の一部教科担任制のシステムでは、専科や特別教室配当との関連で時間割の調整がつきにくく、作成の時間もかかりすぎてしまうという問題点がある。今後は、担当教科やシステムの見直しを図り、より効果的な一部教科担任制の推進をしていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力検査の実施（年1回5月）

算数科における意識調査の実施（年2回6月、2月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 学力向上フロンティアスクール中間発表会の開催

日 時 平成15年11月14日

場 所 田野町立田野小学校

対 象 宮崎教育事務所管内の小・中・高校の教諭

目 的 これまでの研究の成果を、授業研究を通して管内の学校に広めていく。

- ・ HP 作成中

平成15年度中にはホームページを立ち上げる予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下		7～12学級	
	13～18学級	✓	19～24学級	
	25学級以上			
【指導体制】	✓ 少人数指導		T.Tによる指導	
	✓ 一部教科担任制		その他	
【研究教科】	国語	社会	✓ 算数	理科
	生活	音楽	✓ 図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	✓ 有		無	